

私の原点

国連世界食糧計画 (WFP)
スーダン、レゾリエンス・社会保障事業担当

野副パーソズ美緒氏 (高45期)



東京都立川市出身。
中央大学総合政策学部卒業。
ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス修士(社会政策)。
2003年にWFP国連世界食糧計画に入職。スリランカで学校給食、津波支援に携わる。
その後スーダン、ソマリア、パキスタン、日本で緊急・復興支援、ラオスで学校給食、イエメンで母子保健事業、セネガルで西アフリカのレジリエンス事業を担当した後、現職。



シエラレオネの村での会合の様子 (2019)



モリタニアでの女性グループの聴き取りの時の写真 (2016)

もともと私の専門は緊急支援および復興と平和構築で、スーダンに来る前はイエメン、南スーダン、ソマリア、パキスタンなどの前線、そして2011年の東北大震災の時は日本に一時的に戻ってきて緊急対応の仕事をしてきました。自分が家族を持ち、子どももできたことで紛争地、災害地での緊急の仕事から一旦方向性を変えて、長い目でみた途上国の生活向上に関与する開発系の事業に携わるようになりました。国際機関の仕事は数年ごとに赴任地が変わりますが、人生のステージで自分の優先順位や生き方も変わってきます。

立川高校卒業から28年、大学は日本でしたが、大学院はイギリスだったので日本を出て、海外に住むようになってからほぼ20年近い日々が経ちました。その間訪れた国は、仕事・プライベート含め86か国、現在仕事をしているスーダンは9つ目の赴任地です。本人はまだ若いつもりなのですが、こうやってやったことを積み重ねていくと特に盛らなくても結構な数字になることに驚きます。現在は世界最大の人道支援機関である国連世界食糧計画(WFP)で紛争・災害・気候変動の影響を受けた人々の支援をしています。世界的にコロナが広がり、資金難や貧困の複雑化・長期化など大変なことも多くありますが、WFPが昨年ノーベル平和賞を受賞したこともあって、現場の士気もあがっています。私が担当しているのはスーダン国事務所の開発事業、小規模農家の生活向上、社会保障や社会のセーフティネットを整備する事業です。



スーダンのダルフルで政府とNGO関係者でワークショップを開催した時の写真 (2021)

高校時代は水泳部でした。当時体育会系の部活はどれも厳しく、上下関係のきつさもさることながら朝練や昼練もあり、一日中ずーっと水着の上に部活のジャージを着て生活しました。夏休みは毎日一日中練習で一日終わるともう次の日のことを考えて泣いていましたし、真冬に寒中水泳や奥多摩から立高まで丸一日かけて走ったりもしました。何本も走り込みをしたあとに多摩の緑地で先輩に言われた「自分の限界を決めているのは自分だ」という言葉や、夏休みの「魔死 Day」で、何本も潜水をさせられている時に、ふっと恐怖と疲れから解放された「まだまだいける。いくらでもいける！」と感じたランナーズハイの状態を経験したり、体も精神も極限まで徹底的に鍛えられた時代でした。今はきっとこういうのはもう流行らないのかもしれませんが…時々懐かしく思い出します。2年生の時にはアメリカ留学もしましたし、高校時代に培った精神力、体力と「自分の限界は思ってるよりひろげられる」という自信、帰国のたびにほぼ会えている友人と、私にとって高校時代は、遠い昔の青春時代というより、今につながる自分の原点に位置するものです。